

# 赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

# 3

Mar 2010

Vol.838 http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



生後6カ月の赤ちゃんを診察する岡村医師 ©Talia Frenkel/American Red Cross

## 日赤医療チーム ハイチ大地震 被災者支援に力を結集



1月にハイチを襲った大地震は、死者20万人超、被災者約300万人と甚大な被害をもたらしています。日本赤十字社は世界の赤十字社と結束し、救援活動を展開中です。ハイチでは今、何が起きていて、何が必要なのか。日赤医療チームの活動から現状を探ります。

ハイチには現在、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の調整の下、22カ国から約600人の赤十字スタッフが集結。ハイチ赤十字社の約1万3000人のボランティアと協力し、医療や給水、トイレなど衛生面のほか救援物資配人を派遣されています。



避難民キャンプで行われた予防接種

### 仮設診療所で 皮膚移植手術

医療スタッフで熊本赤十字病院の岡村直樹医師によると、診療所の患者は2月17日現在で1721人に上りました。外傷で右足の皮膚を失った3歳の男の子には、足の付け根の皮膚を移植する手術を施しました。岡村医師は「本来は、被災地でも特殊な手術は病院が担うが、その多くが倒壊して患者を受け入れられなかった」と言います。

地震による外傷や精神的にダメージを負った患者は全体の16%にとどまり、日を追うごとに糖尿病などの持病や頭痛、下痢などを訴える被災者が増えています。

診療所には日赤職員だけでなく、医師や看護師や薬剤師ら15人のハイチ人スタッフが加わっており、今では中心的な役割を果たしています。日中の気温が35度を超える厳しい条件の中、スタッフ全員で日々変わる患者のニーズに対応しています。

### 感染症予防 種の中核担う

名古屋第二赤十字病院の関塚美穂看護師は、被災者への

予防接種に  
当たりまし  
た。「避難  
民キャンプ  
はトイレな  
どの衛生設  
備が不足  
し、感染症  
が発生する  
と、たちま  
ち広がる危  
険が高い」  
(関塚看護  
師) からで



仮設診療所を設営する山田さん

### 医療活動を 支えた「裏方」

日赤医療チームのメンバーは、医師や看護師だけではありません。大阪府支部の森正尚さんは、事務管理担当として活動を支援しました。

森さんの最初の任務は、医療活動に必要な資機材を診療所に届けること。ポルトープランスの空港はマヒ状態で、隣国のドミニカ共和国から陸路で運びました。診療所の運営に欠かせない現地スタッフの採用にも奔走。通訳担当の五島三保子さん(日赤本社)とともに面接を行いました。また、技術担当の山田慎士さん(名古屋第二赤十字病院)は、通信手段の確保やその電源となる発電機の管理などを担いました。

ハイチでは、仮設住宅建設など、まもなくやってくる雨期やその後のハリケーン対策が急務。貧困層の支援など国の再建に向けた課題も見えてきました。日赤は今後も医療分野を中心に引き続き復興を支える方針です。  
(7、8面に関連記事)

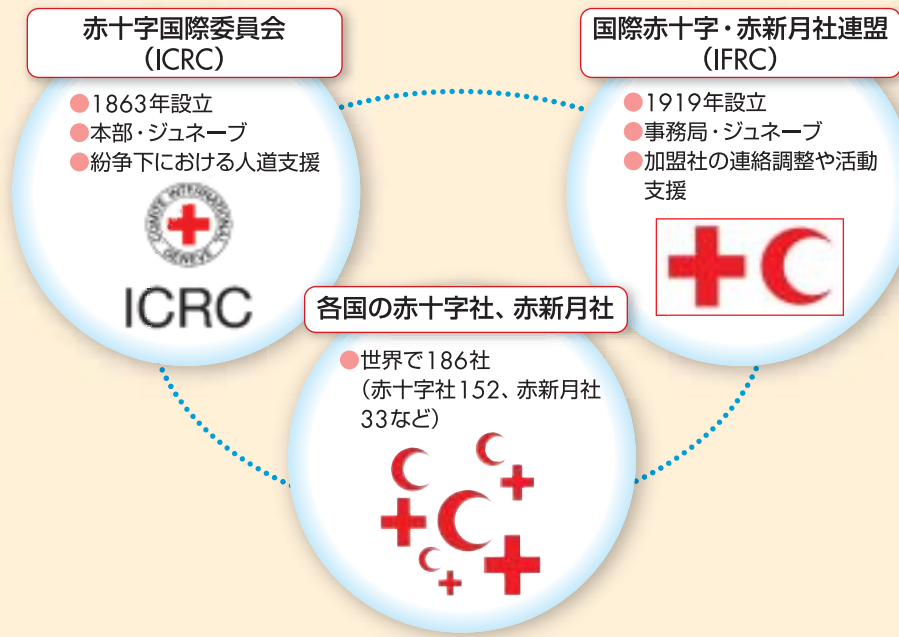
### 救援金12億円集まる

ハイチ大地震被害の救援金は、2月19日現在で12億6471万1091円が寄せられました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。

3月31日まで延長しています。詳しくは日赤ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください。引き続き協力をお願いいたします。

3つの組織からなる赤十字



「平和とともに戦争のつらさも体験しているからこそ、日本人にできることがある」

# 「日赤と連携をもっと強めたい」

## ICRC・クレヘンビュール事業局長が来日講演

世界各地の紛争で犠牲となった人々に救いの手を差し伸べている赤十字国際委員会(ICRC)。事業局長のピエール・クレヘンビュール氏がこのほど来日し、日本赤十字社で講演しました。

クレヘンビュール氏は、世界約80カ国以上で展開するICRCの事業を取りまとめる最高責任者です。今回は、駐日事務所(東京)の開設1周年を機に来日しました。講演のタイトルは「ICRCの最近の課題と日赤に期待すること」。

日赤は現在、アフガニスタン、パキスタン、イラクの3カ国でICRCが運営する医療施設

世界各地の紛争で犠牲となった人々に救いの手を差し伸べている赤十字国際委員会(ICRC)。

同氏は紛争の現状について、「長期化や一般市民の犠牲の増加が目立つ。それに伴って、ニーズも拡大し、ICRCは多角的な対応が求められている」と説明。

「われわれは、紛争で苦しむ人々を保護し、支援するために活動している。そのためには、中立の立場で紛争にかかわるすべての当事者と対話しなければならぬ」と、粘り強い対応が必要であることを強調しました。

日赤とICRCは緊密な協力関係を築いています。日赤は現在、アフガニスタン、パキスタン、イラクの3カ国でICRCが運営する医療施設

近の課題と日赤に期待すること。日赤は現在、アフガニスタン、パキスタン、イラクの3カ国でICRCが運営する医療施設

「被災者たちが直面している苦しみの大きさを考えると、再びやる気が起きにくく

に計5人のスタッフを派遣中。財政面でもICRCを支援しています。クレヘンビュール氏は日赤の支援に謝意を表しつつ、紛争や災害で離散した家族の消息をつかむ「離散家族再会事業(RFL @ Storing Family Link)」についても連携していくことに期待を示しました。

質疑応答で紛争当事者との関係構築の方法を問われたクレヘンビュール氏は、「話し合いは時間がかかり忍耐を要するうえ、少しの誤解や言葉の行き違いで信頼はすぐ崩れてしまう」と難しさを明かしました。それでも「人間の尊厳を守ることに携わりたい」と言う同氏は、現場で困難にぶつかったときには自身にこう言い聞かせているそうです。

## ICRC Q&A

- Q ICRCはどんな組織?**
- A** 戦時救護を目的に設立され、武力紛争や騒乱などの犠牲となった人々を支援しています。
- Q 主な支援活動の内容は?**
- A** 紛争の被害を受けた一般市民や傷病兵の医療救護や、捕虜など拘束者の保護、行方不明の家族の捜索・再会などを手がけています。
- Q 何に基づいて活動?**
- A** 1949年に制定された「ジュネーブ諸条約」に基づきます。条約は戦闘に巻き込まれた人を人道的に扱うことを求めており、現在194カ国が加入しています。
- Q 日本赤十字社との違いは?**
- A** 日赤は主に国内の医療や自然災害分野で活動しており、基本的な任務が異なります。ICRCの財政は募金や寄付でなく、各国政府などからの拠出でまかなわれます。また、各国の赤十字社の連合体としてIFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)があり、日赤の近衛忠輝社長が会長を務めています。3者が連携しながら赤十字活動を推進しています。



ICRCと日赤神奈川県支部が共催した写真展。紛争地域で懸命に生き抜こうとする人々の姿を伝えました(昨年12月)

## ICRC 駐日事務所 長嶺義宣所長からのメッセージ

ICRC 駐日事務所は、主に3つの取り組みに力を注いでいます。

第一は、紛争地で働くICRCの日本人国際職員を増やすことです。現在、日赤からは医療スタッフを派遣してもらっていますが、拘束者の保護活動などの分野にも日本人が参加してほしいと考えています。

第二は、国際人道法を学ぶプログラム「人道法の探求(EHL Exploring Humanitarian Law)」を学校教育に取り入れてもらうことです。ICRCは駐在する国の赤十字社・赤新月社と共に国際人道法の普及を促します。EHLは子どもたちに「世界で起きている紛争は決して遠い世界の出来事ではない」と、理解してもらえない構成になっています。小さいうちに他人の悲しみや痛みを感じる想

は、通常英語とフランス語に堪能なことが条件ですが、日本人については当面英語のみということになりました。日本人の仲間が増えることで、ICRCをもっと身近に感じてもらえるのではないかと期待しています。

二つ目は、国際人道法を学ぶプログラム「人道法の探求(EHL Exploring Humanitarian Law)」を学校教育に取り入れてもらうことです。ICRCは駐在する国の赤十字社・赤新月社と共に国際人道法の普及を促します。EHLは子どもたちに「世界で起きている紛争は決して遠い世界の出来事ではない」と、理解してもらえない構成になっています。小さいうちに他人の悲しみや痛みを感じる想

像力を養ってもらい、広い視野で世界を見られる大人になってほしいと願っています。

そして第三の試みは、日本にもRFL(離散家族再会事業)を構築することです。自然災害に遭った在日外国人の消息をつかむためです。ハイチ大地震でも、国外から家族が安否を確認できるICRCのウェブサイトを重要な役割を果たしています。災害はいつ起こるか分かりませんので、日本でもRFLが有効に機能する体制をなるべく早く整えたいと考えています。

今後は日赤とさらに協力していきたいと思っています。特にEHLとRFLは密接な連携が必要で、日本のニーズに応えながら役割を果たしていきます。



新しく導入される「宝くじ号」

愛の献血車「宝くじ号」の12台が、財団法人日本宝くじ協会から日本赤十字社に寄贈

**44年目の愛のリレー**

## 献血車「宝くじ号」新たに12台寄贈

愛の献血車「宝くじ号」の12台が、財団法人日本宝くじ協会から日本赤十字社に寄贈

2月16日に日赤本社で引き渡し式が行われました。今後、全国12道府県の血液センターに順次配備される予定です。

「宝くじ号」は、宝くじの収益金を元に導入されている献血車で、今年4億1500万円が充てられました。昭和42年に第1号が誕生して以来、同協会は毎年寄贈を続けており、44年目の今年を

合わせると通算412台になります。このうち、現役の「宝くじ号」は134台で、全国で稼働している献血車の半数近くを占めています。

引き渡し式では、栃木県と鹿児島県の血液センターに配備される2台がお披露目。同協会の遠藤安彦理事長から日赤の近衛忠輝社長に「宝くじ号」のキーが手渡されました。

献血車は平成21年度に導入した車両から外装が一新されました。従来のクリーム色にグリーンベルトをひいたものから、白を基調に献血推進キャラクター「けんけつちゃん」が描かれた親しみやすいデザインに変わっています。

# 子どもと高齢者の健康・安全を守るために

## 合同講師研修会

高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術などを学ぶ講習。日赤では平成25年度まで全国40万人に普及することを目指しています。



体の拭き方の実技の確認

秋田県支部の稲岡一枝事業推進係長は「奉仕団員へ、団員から地域高齢者へ。人のつながりが受講者の広がりとなります」と

## 普及のカギは地域奉仕団！ 人から人へと広がる健康生活支援講習

健康生活支援講習と幼児安全法講習の普及や指導技術の向上を目的にした講師研修会が2月3日から5日まで、日本赤十字社本社で開催されました。健康生活支援講習は、

地域奉仕団委員長の役割の重要性を強調しました。従来の「家庭看護法講習」に比べて、看護師資格を持た

ない一般指導員が指導できる範囲が広がったのも健康生活支援講習の特徴。岡山県支部の江里美代子参事は、「活躍

の場が広がり、一般指導員の意欲も高まっています」と発表しました。

くなりました」

要介護者が男性で、介護者が女性の場合には、次のような問題も発生します。「女性は男性の排泄について正直なところ分かりません。そのため、「漏れないように」とおむつをきつく当ててしまい、排泄しにくくなっていることがあります」

2月19日、本社において平成21年度第9回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

### 常任理事会開催報告

ルテンステムの更新整備にかかる資金の借入）  
理事会に付議する事項について

（日本赤十字社本社組織規則及び日本赤十字社看護師養成規則の一部改正並びに大田原赤十字病院の移転新築工事にかかる資金の借入）

理事会及び第74回代議員会に付議する事項について  
（役員選出、平成22年度事業計画、平成22年度収支予算）

### 記

#### 付議事項

##### 予算の補正について

（山形県支部の災害救援物資等保管用建物及び土地の取得、名古屋第一及び第二赤十字病院の医療機器の整備にかかる愛知県支部における寄付金の繰出並びに福岡赤十字病院の増改築工事にかかる福岡県支部における特別募集寄付金及び補助金の繰出にかかる一般会計歳入歳出予算の補正）

##### （前橋赤十字病院の借入金

の繰上償還、長岡赤十字病院のオーダリングシステムの更新整備、福岡赤十字病院の増改築工事及び唐津赤十字病院の血管撮影装置の更新整備にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正）  
資金の借入について  
（富山赤十字病院の電子カ

##### （紙おむつのテープをはが

きくなることを指摘しました。おむつのギャザーの役割や当て方を実演する浜田さん



おむつのギャザーの役割や当て方を実演する浜田さん

「紙おむつは要介護者の生活の質を大きく左右します。自立を目指し、その人らしく過ごすためには正しい排泄ケアが大切です」

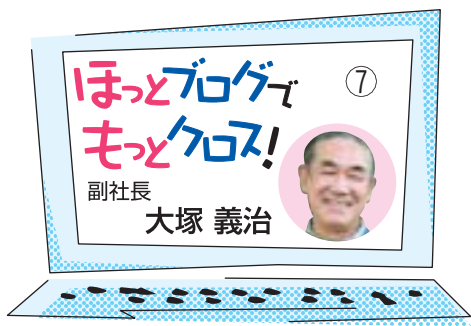
こう語るのは、排泄用具情報館日本初 排泄用具情報館 浜田きよ子代表が熱演

## 高齢者の尊厳を守る排泄ケア 日本初 排泄用具情報館 浜田きよ子代表が熱演

「排泄ケアは要介護者の生活の質を大きく左右します。自立を目指し、その人らしく過ごすためには正しい排泄ケアが大切です」

こう語るのは、排泄用具情報館日本初 排泄用具情報館 浜田きよ子代表が熱演

▼プロフィール  
昭和22年生まれ、栃木県出身。元厚生労働事務次官。平成17年から日本赤十字社副社長。趣味は読書で、自身の読書遍歴をまとめた「遊歩入夢 文庫の香り」（弓立社）の著書がある。



### ◆一隅のブロンズ像

この“ブログ”の第1回目で、小説などに取り上げられている赤十字について触れ、もし他に知っている例があったら教えてほしいとお願いしたところ、後日、日赤長野県支部の職員の方から連絡をいただきました。

「千曲川のスケッチ」や「夜明け前」などで知られる島崎藤村は、長野県にゆかりの深い明治時代の詩人・作家ですが、代表作の一つ「破戒」の中に、チラリと赤十字のことが出てくるのだそうです。たいへん興味深いことを教えていただきました。ありがとうございました。

そこで私も、一つ追加しておきたいと思います。

最近「メフェナーボウのつどう道」（古処誠二著・文藝春秋社刊）という本を読みました。太平洋戦争末期、日本の敗色が濃厚なビルマ（現在のミャンマー）で、病み傷ついた日本兵らを支えながら、350キロに及ぶ陸路を撤退していく日赤の救護看護婦が主人公です。

これ自体はあくまで小説ですが、実際にも当時、相当の数に上る日赤看護婦が従軍したのはご承知のとおりです。

東京の日赤本社。その前庭の一隅に、殉職救護員の慰霊碑と、救護の制服に身を包んだ看護婦のブロンズ像が建てられています。台座の中には明治27年の日清戦争以降の戦争や災害の際に命を落された、1300人を超える救護員の方々の名簿と遺芳録が納められているのです。

日赤は、今日まで130年余という長い歴史を刻んできました。しかしその過程は、決して平坦な道ばかりだったわけではありません。むしろ、実に様々な苦難と試練に遭遇しています。そして、多くの人々のご努力や尊い犠牲の上に今日があるということをお忘れはならないと思います。

そのためにも、赤十字の歴史を学び、さらに引き継いでいくことが、私はとても大切なことだと考えています。

この項へのご意見を歓迎します。メール・アドレスは、<otsukablog@jrc.or.jp>です。

Handbook on the Red Cross Emblem  
赤十字標章ハンドブック  
標章の使用と管理の条約・規則・解説集

■井上忠男  
■角田敦彦  
■河合利修  
■森 正高

東信堂

## 赤十字標章ハンドブック 赤十字思想誕生150周年記念出版

赤十字標章の使用規則と解説のすべてを収録した「赤十字標章ハンドブック」がこのほど発行されました。

企画は、日本赤十字社秋田看護大学の井上忠男教授を中心とする刊行委員会。ジュネーブ諸条約や国内法令などに定められた赤十字標章の関連規定、有事の際の赤十字標章

使用に関するガイドラインのほか、標章の使用管理の病院事務も解説しています。井上教授は、「赤十字の施設や職員が知っておくべき知識を網羅しています。職員必携のハンドブックです」と話しています。

定価6500円＋税。お買い求めは、お近くの書店または出版社へ。

発行：東信堂 電話03-3818-5521 FAX 03-3818-15514

# 医療現場で奮闘する 赤十字病院

## 空飛ぶ救命救急「ドクターヘリ」

### 前橋赤十字病院(群馬県)

「ドクターヘリ出動せよ」  
消防の要請を受け、前橋赤十字病院の屋上ヘリポートから、救急の医師と看護師を乗せたドクターヘリが飛び立ちました。ヘリは、人工呼吸器や心電モニターなど救命救急に必要な器材や医薬品も載せています。

### 1秒でも早く現場へ

30分以内止血をしないと半数が死亡します。この事故で、発症から救命措置開始まで一人の命を助けました。

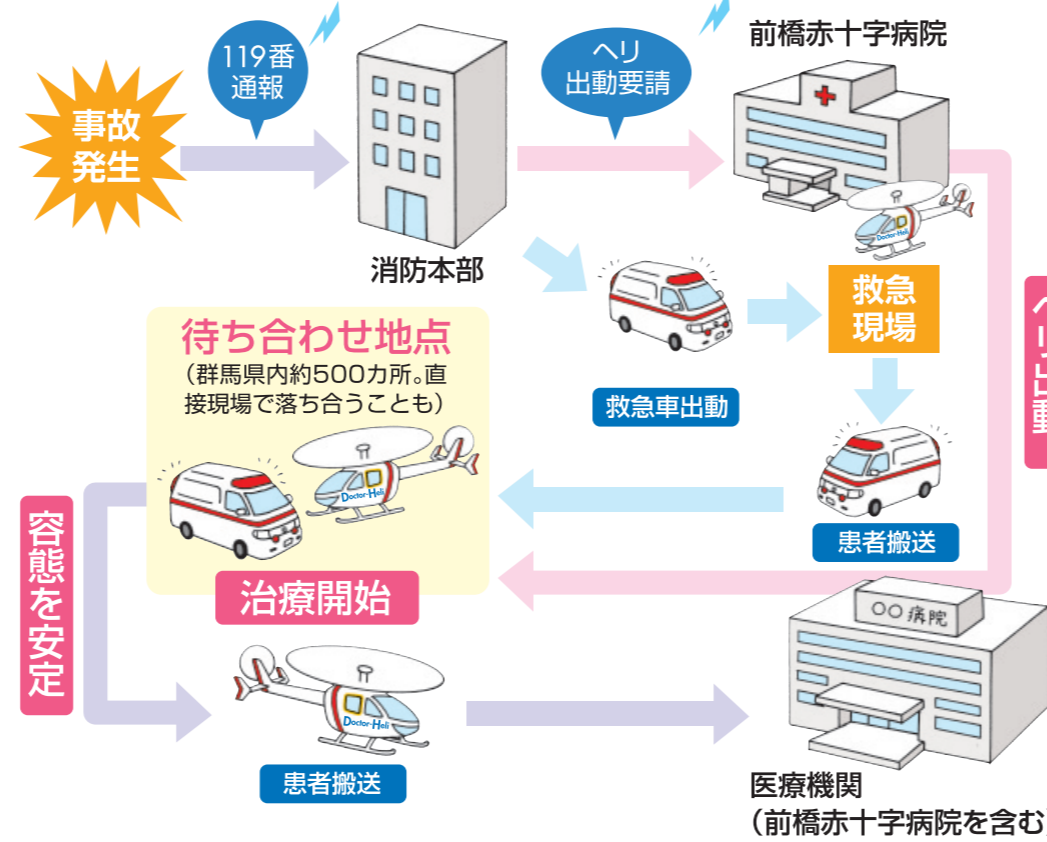
左右、視界の悪いときや夜間は飛行できません。CSは刻々と変わる気象データを入力する必要があります。群馬県は風が強い日が多く、夏場は雷も頻発するので気象は「CSの立石鉄也さん。あまりに強風の場合、病院の屋上ヘリポートから前橋市内の別のヘリポートにチーム全員が移動する日もあります。」

運転も年目に入り、課題も見えました。高度救命救急センター長の中野実医師は「ヘリが出れば、助かった命はもったったはず」と指摘します。その根拠は、消防本部によつて出動要請件数に大きな差があること、野医師は消防職員を対象に勉強会を開いてきましたが「今後もヘリの積極活用を呼びかけなくては」と話します。

# 救える命は絶対に救う!



## ドクターヘリ運航の流れ



### ヘリ出動

前橋赤十字病院は、ドクターヘリに救われたい家族から手紙が届いています。「元気がなかったことをお伝えしなければ、と筆を取りました」  
「この感謝の声を糧に、今日もチーム全員が士気を高め、出動に備えています。」

## モックアップクロス!

### 横浜市立みなと赤十字病院 事例1

#### ブログで新人看護師を確保

「先輩の支えて、気持ちを楽にする。かけをうかんだ後輩。こうやって、みんな成長していくのかなあ」  
横浜市立みなと赤十字病院の看護師4人がつくる病院公認の「ナースのブログ」は、新人ナースの成長をこのブログを通じて。ブログは平成20年9月に立ち上げられ、アクセス数は多い日3000件を超えます。ブログの狙いは、若手看護師の確保。ブログを通して、「二人でも先輩のフォローがある職場である点をアピール。外部の人には見られぬ手帳や筆記用具の紹介したり、術室を案内したり、職員寮を案内したり、職員の生活の様子を載せています。ブログを見て、院見学や採用試験を受けたい人も増え、効果も上がっています。」

## ここもすごいぞ 赤十字病院

# 人材発掘や地域貢献にも尽力

### 石巻赤十字病院 事例2

#### 手術体験で医師の道を志せ!

「君もフロンツァックになろう!」こんな面白いタイトルの掲げた字も向けのセミナーが昨年8月に石巻赤十字病院(宮城県)で開催されました。  
このセミナーは、地元の中学生に実際に医療現場で使う機器を触らせて体験してもらい、医師の仕事への興味を養ってもらうことを目的としました。  
参加した18人の中学生は、手術室で実際に手術衣や手術マスクを身にまとい、いざ模擬手術。医師のお手本を見た後、超音波がとよめる手術や内視鏡手術のシミュレーションなどにも挑戦しました。



模擬手術に臨む参加者

### 日赤宮崎県支部 事例3

#### 無医地区へ40年 続く巡回診療

赤十字病院がない県でも、赤十字は地域医療を支えています。  
宮崎県支部では、昭和44年から県の委託を受け、無医地区への巡回診療を続けています。



みなさんの健康をお守りします

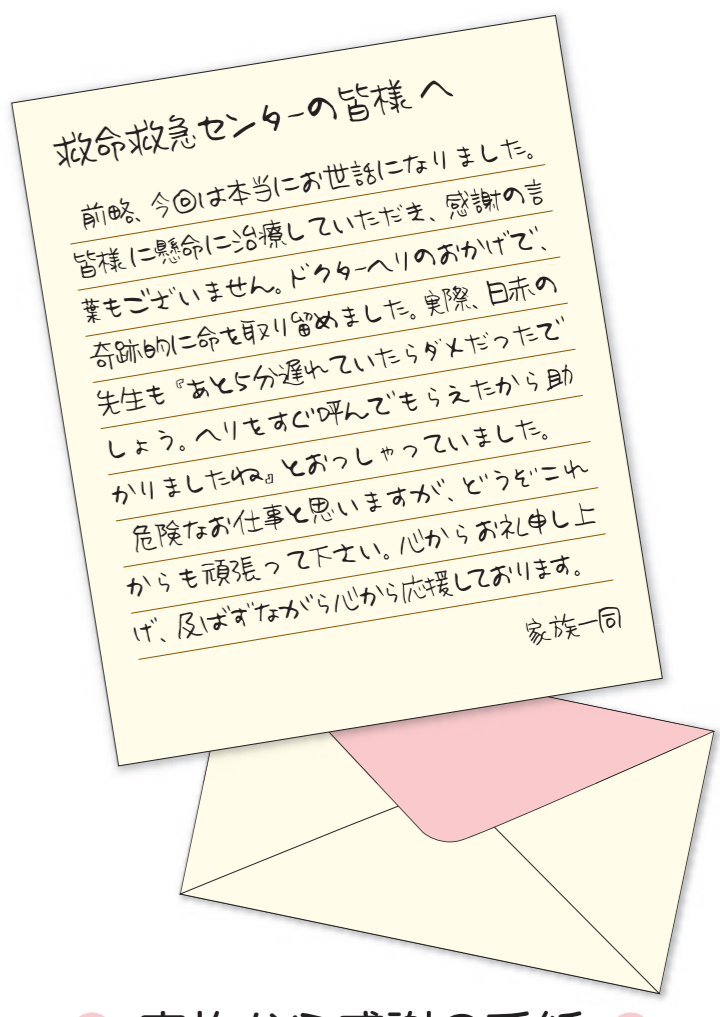
## 安心の医療を目指して 赤十字病院の合同研修会



昨年11月に広島市で開催された中四国ブロック研修会

赤十字病院は、各病院の具体的な取り組みを紹介する。各病院間の情報交換を重視。また、事例要因分析や危険予知トレーニング、薬の誤投防止、患者や家族とのコミュニケーションの取り方など、医療安全には欠かせない課題をワークショップ形式で学んでいます。  
日本赤十字医療安全課の最所浩典課長は、プログラムを使った研修のメリットについて、「病院が単独ではなく、地域ごとに集まって研修することで相互にレベルアップを図れます」と強調。今後の展開については、「赤十字病院が各地域の中核病院として役割を担うために、地域や職種を超えた学習機会を引き続き設けていきます」と話しています。

赤十字病院は今年度からプログラムを活用し、全国7ブロックに分かれ研修会を開催しています。これまでに医師、看護師から薬剤師、事務職員まで、病院に携わっているすべての職種から100人が参加しました。  
研修会では、各病院の具体的な取り組みを紹介する。各病院間の情報交換を重視。また、事例要因分析や危険予知トレーニング、薬の誤投防止、患者や家族とのコミュニケーションの取り方など、医療安全には欠かせない課題をワークショップ形式で学んでいます。  
日本赤十字医療安全課の最所浩典課長は、プログラムを使った研修のメリットについて、「病院が単独ではなく、地域ごとに集まって研修することで相互にレベルアップを図れます」と強調。今後の展開については、「赤十字病院が各地域の中核病院として役割を担うために、地域や職種を超えた学習機会を引き続き設けていきます」と話しています。



家族から感謝の手紙

寒さに負けず

命救う活動各地で

めざせ救急法の技術向上！ 神奈川

救急法の技術と正確さを競



練習の成果を発揮

い合同「第13回救急法競技会」が1月23日、横浜文化体育館で開かれました。競技会には、71チーム310人が参加。傷病者を救急隊に引き継ぐまでに必要な手当てを施す「救命応急手当」や、災害時に傷病の緊急度に応じた迅速な手当てを行う「災害救助」など4種目で競い合いました。参加者の中には「1週間前から先生と猛練習をした」と意気込む小学生の姿も。大人も子ども一緒に頑張って、真剣勝負ながらも競技を通じた交流が図られました。

楽しいスキーは 安全対策から



ソリに負傷者をのせて運ぶ方法を学ぶ

千葉県支部は神奈川県支部と共催で、雪上安全法救助員の養成講習会を今年も開催しました。講習会が開始されてから今回で12年目を迎えます。今年

献血キャンペーンに燃える冬

献血で広がる 笑顔の輪

愛媛県支部は新成人ら若年層を中心に献血を呼びかけるイベントを1月9日に開催しました。



笑顔いっぱい写真パネル

イベントのキャッチフレーズは「献血で広がる笑顔の輪」。参加者は、クイズを通じて献血への理解を深め、ミニコンサートやマジックショー

も楽しみました。さらに、参加者たちは自分の笑顔を写真に収めてもらった後、その写真を自らパネルに張り付け、「笑顔の輪」を完成させました。



会場は献血者が減少しがちな冬場は献血者が減少しがち

この施設名は、ルームが鉄人28号・モニメントの近くにあることにちなんだもの。県内で初めてキッズスペースを備えていて、子ども連れの方が気軽に寄ることができま



新しい献血スペース「新長田鉄人前献血ルーム」がJR新長田駅前(神戸市長田区若松町)に1月23日、開設されました。

期間中の献血協力者は746人。このうち献血初体験の方は、「スタッフも優しく、安心して献血できました。これから協力していきたい」と話していました。



子どもにおまかせ！ 兵庫

鉄人におまかせ！ 兵庫 新長田鉄人前献血ルームがJR新長田駅前(神戸市長田区若松町)に1月23日、開設されました。

赤十字の現場から



平成21年8月9日の台風9号により兵庫県佐用町は土砂崩れ・河川のはんらん

現地情報は入手できず、準備を整えての出動でしたが、「私にできることがあるだろうか」という不



など甚大な被害を被りました。災害から9日目、私は救護班の第8班として出動しました。

兵庫県西部大雨被害で救護班として出動

姫路赤十字病院 看護係長 赤十字こころのケア指導員

守山 聡美さん

現場に近づくにつれて川の水位は濁り、橋は崩壊、なぎ倒された木も目立ってきました。災害のあまりの大

ことができなかった経験があるからです。現場に近づくと川の水は濁り、橋は崩壊、なぎ倒された木も目立ってきました。災害のあまりの大

子どもや、一人暮らしでの先の生活を心配している高齢者など多くの方がストレスを抱えていました。私たちに話をするこ

に出せるようになった被災者の方もいました。そんな皆さんから笑顔で「ありがとう」と言っていたいた時には、この仕事に携われてよかったと思いました。

今回こころのケア活動に参加して、病院の中でも災害現場の救護でも、一人ひとりに寄り添い、その声を改めて認識しました。これからも患者さんや被災者の方への共感と支援を大切にしたいと思っています。

AEDで命を救おう！

香川

香川県支部は2月1日、坂出市地区で10台のAED(自動体外式除細動器)の引き渡し式を行いました。

約60人が参加。生徒の一人は「思っていたより難しかったが、命を救わなければならない場面を遭ったら、しっかり手当てをしたい」と話していました。

「お金集め頑張らんと」の手応え 京都

京都府支部は2月7日、赤十字地域防災セミナーを京都府南部の八幡市で開催しました。地域の防災意識を高め、赤十字の救護活動を知ってもらうのが目的です。

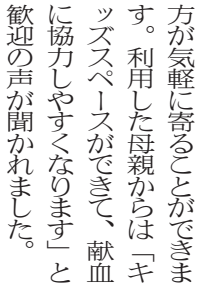
テロに備えた 大規模訓練

徳島

化学テロなどの特殊災害に備えた国民保護共同実動訓練(内閣官房)が2月6日、徳島県鳴門・大塚スポーツパークなどを会場に実施され、徳島県支部からDMAT隊員9人が参加しました。

テログループによりサリ本番ながら

防護服に身を包んだ訓練は



防護服に身を包んだ訓練は本番ながら



おとなしく待ってね

# 地域をホットに奉仕団

## 養護施設の 児童と交流

大阪府支部は1月31日、青年赤十字奉仕団を中心に、児童養護施設の入所児童たちとのレクリエーションイベント「冬のつどい」を大阪赤十字会館で行いました。奉仕団員



みんな仲良し

と児童は、ビンゴゲームなどで交流し、付き添いの施設職員からは「赤十字がこうした活動をしているとは知らなかった。子どもたちも楽しめたと思います」と喜びの声が。最後に、奉仕団員が「みんなで遊んだことを忘れないで」とあいさつすると、児童たちは「ありがとう」と答えていました。

## 点訳絵本

手で触って読む点字ですが、静岡県点訳赤十字奉仕団では、見ても楽しめるオリジナルの点訳絵本を作成。静岡



温もりのある挿絵も魅力です

## 心からの寄付に感謝

### 全国に広がる支援の輪

ハイチ大地震の被災者を救おうと、全国から続々と救済金が日本赤十字社に寄せられています。ご協力ありがとうございます。

### 中学生が熱心に募金活動

香川県の青少年赤十字(JRC)加盟校の坂出市立榎石中学校と高松市立古高松中学校の生徒が1月25日、同支部に17万4679円を寄付しました。榎石中の全校生徒6



「被災者に役立てて」と香川県の両校生徒



## 埼玉西武ライオンズ投手 工藤 公康さん

昨シーズンに横浜ベイスターズを退団し、古巣の埼玉西武ライオンズへ16年ぶりに戻る決意を後押ししたのは、娘さんから送られた手紙でした。「パパの人生はパパのもの。パパの思うようにやってね」

## クロスアップひと

「一時は野球を辞めようかと悩みました。でも、父親として娘の思いに応える義務があると考えたんです」

140キロ後半の直球と大きく曲がるカーブを武器に通算224勝を挙げ

## 現役生活支える人との絆

業ができる方法も開発されるのではないだろうか。日赤本社の情報プラザを見学し、「人の命を助けるために立ち向かう赤十字の活動に感動した」と言います。「日赤の若い職員の方々に、赤十字が誕生した歴史を学び、引き継がれてきた思いを胸に仕事をしてほしい」

## Voice & 懸賞クイズ

◆我が家に「献血カード」

◆身近な人に必要な献血

◆今年号のプレゼント



左から米内中の岩館 JRC 委員長、則竹生徒会長



写真を展示したブース



支援を訴える本丸中生徒ら

### 企業イベントにブース出展

福島県支部は1月30日と31

日、地元企業主催の住宅展示イベント会場にハイチの現状を伝えるブースを設けました。献血推進にご協力いただいている入谷建設工業(会津坂下町)の呼びかけで出展。募金箱も置き、来場者からの救済金が寄せられました。

### 五木ひろしさん 赤十字へ全財産を寄付

歌手の五木ひろしさんが2月10日、日赤本社を訪れ、救済金200万円を寄付されました。1月30日のファンイベントで、五木さんは「少くとも世のため人のために役立ちたい」と、日本赤十字社へ全財産を寄付することを決意されました。



3月号懸賞クイズ  
問題①ドクターヘリに搭乗する看護師の名称は?  
答え □□□□□□□□(カタカナ7文字)  
問題②紛争や災害時に国外から家族の安全を確認できるICRCの事業は?  
答え □□□□(アルファベット3文字)  
ヒントは「赤十字新聞3月号」の記事の中です。

に登場の工藤公康投手のサイン色紙を3名様に。  
郵便〒1105-8521  
FAX 03-3437-7091  
メール kohn@jrc.or.jp



2月号の懸賞クイズの答え  
問題① がん  
問題② ウガンダ  
当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

# インタビュー INTERVIEW

## ハイチ大地震

### 「幅広い医療支援が必要」

#### 日赤国際部 粉川直樹参事に聞く

日本赤十字社国際部の粉川直樹参事はハイチ大地震の直後に現地入りし、医療チームの態勢作りなどに奔走しました。中国・四川大地震など多くの震災支援を経験している粉川参事に、ハイチの現状や復興の見通しを聞きました。

ハイチの人たちは大変厳しい状況に置かれています。私が今まで見てきた被災地と比べて最も厳しい状況にあるでしょう。

住宅の崩壊などで行くあてを失った約100万人が、500カ所ほどのキャンプで過ごしています。キャンプは非常に手狭で、被災者は一人がやっと眠れる場所しか確保できていません。プライバシーもなく、大きなストレスを抱えています。多くは日差しを避けるビニールシートで覆っている程度の粗末な所に住んでおり、4月から始まる雨期までに早急な対応が求められています。今、被災者に必要なのは住居や食事、医療など、人間が最低限生きるために不可欠なものばかりです。

医療チームの最初の仕事は活動拠点を探す

ことからです。拠点は、周りが壁に囲まれていることなど、安全の確保が絶対条件。苦労した結果、日系自動車ディーラーの敷地が見つかり、日赤の医療チームはここで活動しています。これからは負傷者の手当てだけでなく、破傷風やはしか、ジフテリアなどの感染症予防やこころのケア、出産への対応など幅広く診療を行う必要があります。

### 国の再建も重要課題

ハイチは国全体が疲弊しており、今後は国際社会が国の再建を手助けすることも大切です。重要なのは、2004年のスマトラ島沖地震・津波被害での支援経験を生かし、援助機関



自動車ディーラーと交渉中の粉川参事(中央)

が連携して早期に役割分担を決めることで、赤十字はすでに医療分野を中心に動こうと乗り出しています。

ハイチは遠い国で、日本とは関係がないと感じるかもしれません。しかし、それは違うと思います。私は「自分の生活を少しでも変えれば、世界で10億人に上るといわれる貧困層の生活向上にもつながる」との考えから、自分のできることからゴミの減量や家庭菜園に取り組んでいます。どうか関心を持ってハイチの復興を見守っていただきたいです。

## アジア、アフリカで高まる支援ニーズ ジュネーブから2010年の年次計画発表

赤十字国際委員会(ICRC)と国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は、このほど発表した2010年の年次計画のなかで、紛争や災害の支援ニーズがアジアとアフリカ地域で高まっていることを指摘。犠牲者、被災者の救援・救護に向けて、各国政府や各国赤十字社・赤新月社に対し、協力を求めました。

### 長期化、複雑化する人道支援——ICRC

和平協定に基づく明確な終戦がなく、20～40年にもわたり紛争が続く結果、ICRCの支援が長期化。さらに、自爆テロや環境破壊、感染症の拡大などが複雑にからまり人道支援が困難に——ICRCのクレベンビュール事業局長は、近年の紛争の特徴をこう指摘します。

こうした紛争犠牲者の保護・救護活動を行うICRCの今年の年次活動計画は総額約9億8000万スイスフラン(約833億円)。地域別に見ると、アジアとアフリカが全体予算の6割を占めています。支援要請のトップはアフガニスタンの約73億円。イラクの約72億円、スーダンの約65億円と続きます。

事業別では、医療や救済物資の配布といった支援活動が予算の約6割に達しています。

### 3つの戦略目標を追求——IFRC

自然災害時の救援活動や開発協力などを担うIFRCの年次活動計画は総額約2億1000万スイスフラン(約178億円)に上ります。

IFRCは昨年秋の総会で、災害救護や復興支



新型インフルエンザが蔓延したメキシコで、マスクを配布している赤十字ボランティア(2009年5月)

援事業の強化、保健衛生事業の拡大などを盛り込んだ「2020年に向けての戦略」を確認しました。この目標を達成するために、IFRCは各赤十字社・赤新月社に対し、技術的アドバイスや事業実施の調整、能力開発などを行うほか、赤十字としての全世界的な広報を展開していきます。

図1 ICRC予算の事業分野(2010年)

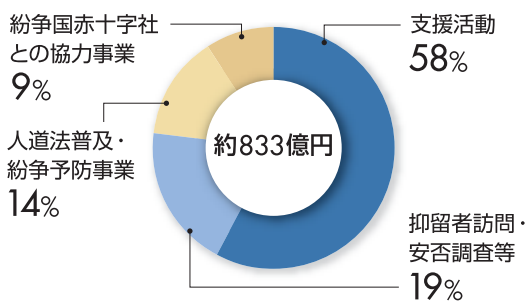
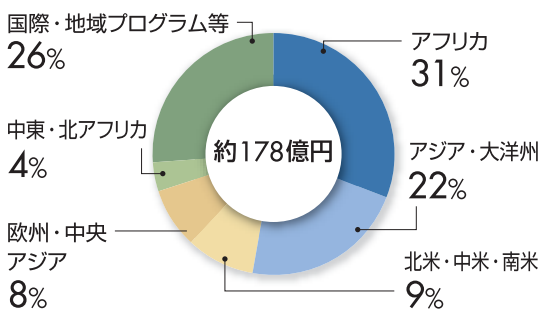


図2 IFRCの地域別予算(2010年)



### ◆2020年に向けての戦略

- 目標1 いのちを救い、暮らしを守り、災害や危機からの復興を強化する
- 目標2 健康で安全な生活を確保する
- 目標3 社会統合と非暴力、平和を促進する

### バンクーバー五輪

## 大会の安心支えた カナダ赤十字社

2月12日から28日まで開催されたバンクーバー冬季五輪。カナダ赤十字社は、期間中の自然災害に備えて避難所設置や災害訓練などを行い、安全な大会運営を支えました。

訓練は、バンクーバーでの大規模な自然災害の発生を想定。宿泊施設が被害に遭い、多くの人がコミュニティセンターなど公共施設に避難す



聖火リレーにはスティーヴン・ハーパー首相(中央)も応援に。左がコンラッド氏

る際の対応に備えました。

カナダ赤十字社は、大会成功に向けた聖火リレーにも参加しました。

昨年10月末にスタートしたカナダでの聖火リレー。カナダ赤十字社事務

総長のコンラッド・ソブ氏は12月12日、首都オタワ市のウェリントン通りを約300メートルにわたり力走。その日の最終ランナーで過去の五輪大会でアイスホッケー銀メダルに輝いたジョー・ジュネウ氏に聖火を引き継ぎました。通りに集まった数千人の観客は、沿道から声援を送っていました。

